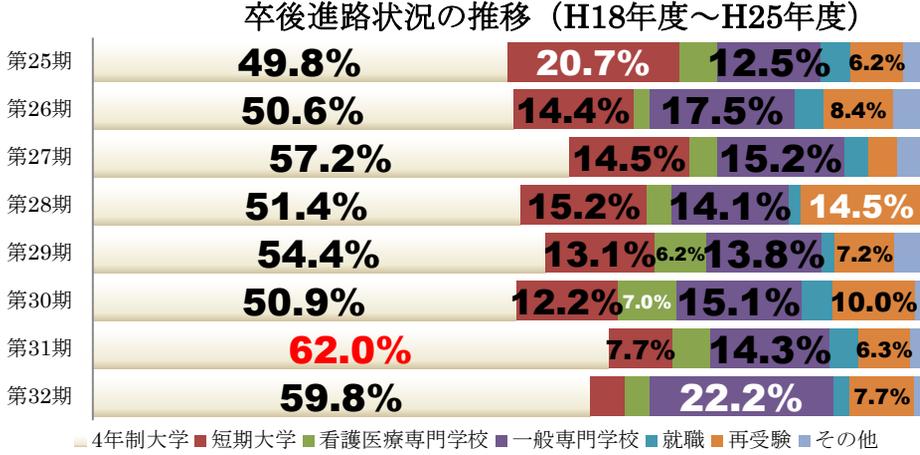


グラフで見る芥川の9年間

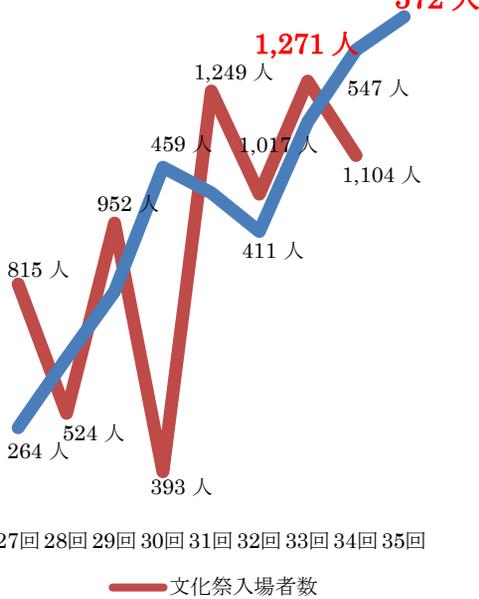
卒業進路の推移

この8年間で、本校の進路実績が目覚ましく伸びている。これは平成20年にリーマンショックが起これ、就職や大学進学といった進路に大きな影響を与えたが、芥川ではこのころから卒業進路の希望実現のために、自習室の設置や補習といった様々な取り組みを始めており、その成果の表れが要因の一つに数えられる。

一方、短大進学率は大きく下っているが、これは、国内の短大数が減少している影響が大きい。(実際、国内の短大数は、平成19年を境に4年制大学と設置数が逆転している。)また、平成25年度については、経済の不安定さから、生徒の進路選択が4年制大学と専門学校に2分されたため、以前より専門学校進学率が多くなったと思われる。

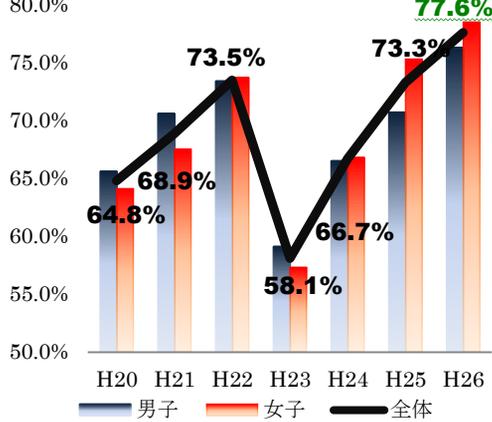


行事における来場者数の推移 (H18年度~H26年度)

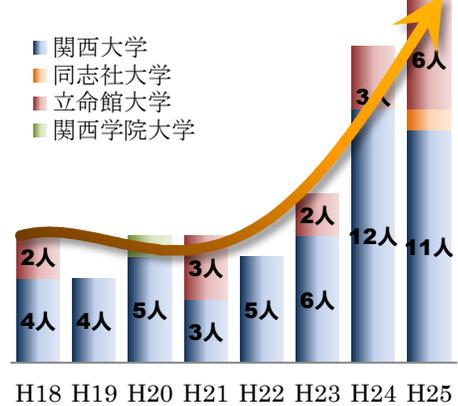


* 第30回文化祭は、新型インフルエンザの流行により、招待祭による来場者数制限のため、来場者数が激減している。

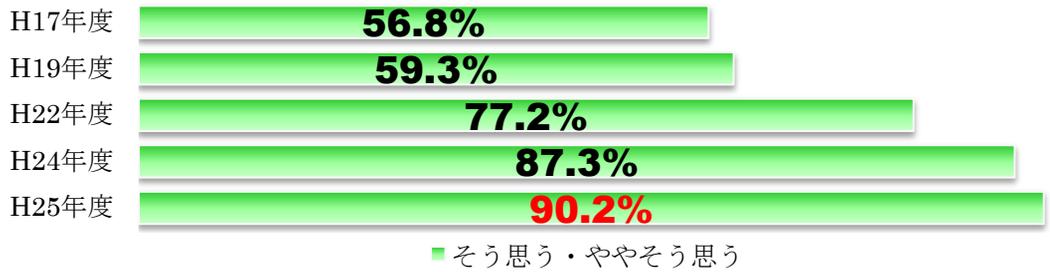
クラブ部員数 (%表示) 推移



関関同立現役合格者推移



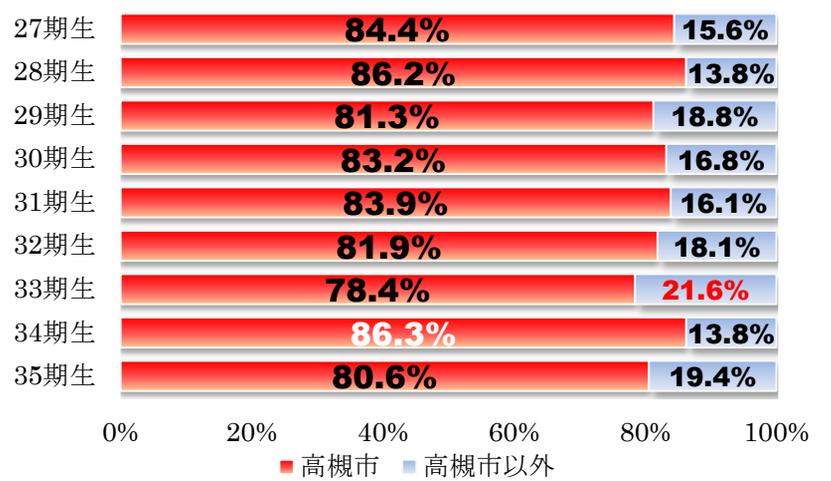
私は芥川高校に入学してよかった



入学生の出身別分布について

芥川高校は、大阪府と京都府の間に位置する高槻市にあるため、他の地区から通うことが難しく、この9年間でも出身別分布に大きな差があるわけではない。ほぼ、8割以上の生徒が高槻市出身で、9割以上が自転車通学をしている。とはいえ、近年の府下の高校入試における変化は激しく、平成22年度から、私学の授業料無償化、平成23年度からは公私立率撤廃による私学のクラス数の急増、平成25年度には普通科の前期後期2回の受験が可能になり、そして、平成26年度は、学区が全面撤廃されている。特に、昨年度は初めての前期後期入試の影響で高槻市内の生徒が一気に8%ほど増えたが、今年度の入学生は、逆に学区撤廃の影響を受けて、再び高槻市以外からの生徒の入学が増えることとなった。

入学生の出身別分布 (H18年度~H26年度)



芥川高校・年表(新聞「芥川」より抜粋)

- H17年8月4日 サッカー部インターハイベスト16
和太鼓部全国高等学校総合文化祭で「優秀賞」と「文化庁長官賞」を受賞(全国2位に相当)
和太鼓部はこの翌年以降も全国総文祭を果たし、出場回数12回、連続出場回数9回を記録し、今年度はついに全国1位となった。
H18年8月7日 吉田 ひかる 空手道インターハイ出場
7月27日 バドミントン部男子ダブルス近畿大会出場
9月16日 第27回文化祭のクラス企画で「自動車」を作成
12月30日 ダンス部関昭郎・大竹康之ダンス甲子園全国大会に出場
H19年4月1日 家庭科 平成19年度教育課程研究指定校に指定される
8月18日 和太鼓部スペインバルセロナ「ESDANSA 2007」に出場
11月22日 韓国高校生訪日研修団来校(生徒50名)
H20年12月18日 和太鼓部中国北京「日中青少年友好交流年」閉幕式で演奏
H21年11月14日 創立30周年記念式典を挙行
11月23日 和太鼓部オーストラリア、ステファニアエンザールにて「JapanWeek」に出場
H22年4月19日 台湾中歴高級中学来訪(生徒57人)
* この年以降、毎年台湾の高級中学が来訪し、交流を行っている。
9月16日 オーストラリアミラニニ高校来校
* この年以降、偶数年はミラニニ高校が来校、奇数年はミラニニ高校へ訪問している。
H23年3月11日 東日本大震災発生
この後、本校でも、和太鼓部の現地訪問や支援活動、校内で募金活動、他校を巻き込んで大阪の高校生が作る支援の輪(現 CHEERS)など数多くの支援活動を行っている。
6月17日 和太鼓部インドネシア、バリ・アート・フィスティバルに出場
H24年12月5日 第32期修学旅行、台湾へ
* この年より、国際理解の観点から修学旅行は台湾に。交流している満芳高級中学は、H26年度は本校に本校。
H25年8月1日 全国総合文化祭に和太鼓部・書道部(井上綾香)のダブル出場を果たす